

宝塚市自立支援協議会 専門部会「けんり・くらし部会（地域生活グループ）」
平成 30 年度活動経過報告

I. 開催日時

| | | | | |
|---------|-------|---------------------|----------|-------------|
| 【ワーキング】 | 第 1 回 | 平成 30 年 9 月 11 日(火) | 出席者 9 名 | 13:30～15:30 |
| 【専門部会】 | 第 1 回 | 平成 30 年 9 月 13 日(木) | 出席者 12 名 | 13:30～15:00 |

II. 要 旨

第 1 回ワーキング(30.9.11)

【前年度の振り返りと今年度の方針について】

地域生活 G r ワーキング「精神保健医療福祉連携推進会議」は今年度で二年目の開催となる。学識経験者をリーダーに、保健所職員、相談支援事業者、当事者団体、ピアサポーター、訪問看護事業者、訪問介護事業者、NPO 法人職員、行政職員がメンバーとなっている。前年度は主に参加機関の機能紹介や現状の把握を行い、ワーキングとしての活動の方向として、精神科病院からの退院を考えている人に向けた宝塚市の社会資源をまとめたリーフレットの作成を行うこととなった。今年度は具体的にリーフレット作成を進めていくことになるが、まず取り組むべきはリーフレットに掲載すべき内容の検討であるため、今回はグループワーク形式で掲載すべき機関や情報の意見の出し合いを行う。また、ゆくゆくは実際に精神科病院に入院している当事者が、地域のどのような情報を望んでいるのかも調査し、リーフレットの内容に盛り込んでいきたい。

【グループワーク】

社会資源リーフレットに掲載すべき情報について意見交換を行うが、まずは忌憚なく自由に意見を出してもらいたい。

2 グループに分かれて一時間ほど意見交換を行い、その後各グループによる発表および全体としての共有を行う。

～ 2 グループに分かれ、協議～

【報告および共有】

A グループ

コンセプトとして「宝塚らしさ」が感じられるリーフレットにしていきたい。
キャラクターとして「スミレン」や「はばタン」のイラストを挿絵として使用したり、地域移行と直接の関わりは薄いかもしれないが、市の行事や地域のイベント情報を掲載するのも良いのではないか。地域の医療機関や、日常生活における相談先として市

役所や保健所、市が委託している相談支援事業所も載せておくべきであると思う。特に住居や就労については地域で生きる上で大きな課題となるため、相談先を把握しておくことは重要であると考えている。権利擁護や年金に関わる部分も課題になるかもしれない。

安心して地域で生活するために必要な情報を分かりやすく、「医療サービス」「生活サービス」「福祉サービス」等に柱立てて分けていけばいいのではないかと。図やイラストがあればより分かりやすいと思う。また、自分以外の当事者のリカバリーストーリーであったり、「マイページ」のように自分の情報（危機の時、周りにどうしてほしいか等）を書いていくページがあってもよいと思う。

B グループ

「生活情報」、「しごとの情報」、「医療情報」に分けて検討した。

「生活情報」については保健所や相談支援事業所、不動産事業者、日中活動の場、または食に関する情報をイメージしている。「しごとの情報」は作業所やハローワーク、「医療情報」は精神科病院や訪問看護事業所の情報を掲載してはどうかと思う。

生活、しごと、医療すべてに跨る情報として、緊急の場合や生活リズムが崩れた場合、どこに相談したらよいかという相談先としての情報も掲載するべきだと考えており、グループとしても最重要視しているところである。見る人の立場によって必要な情報はまちまちになることが想定されるため、すべての情報を網羅しようとする膨大なものになってしまう、見た目も分かりにくくなってしまうと思われる。マップ形式で保健所や相談支援事業所といったハード面の情報を掲載し、イラスト等で日常生活に密接した局面での対応方法を説明したページを設ければ分かりやすく、使いやすいものになるのではないかと。

ハード面をまとめたもの、ソフト面のものと2つリーフレットを作ることも考えられる。

また、不安を感じる状況で一番に思いつくことが災害時であるため、その折の避難場所や動き方を書いておくことにより、少しでも非常時の不安を和らげることができると思う。

今後に向けて

どのような形式のリーフレットにしていくか、一枚物のマップにするか冊子状のリーフレットにするかも含め、今後このワーキングで形式を検討し、それに合わせた予算取りを考えていく。掲載すべき情報については今回のワーキングで様々な意見が出たため、今後は必要な情報をどのような形で、どのようなツールに落とし込んでいくかが今後の検討課題である。災害時の情報についても地域生活支援拠点にも関わる議論になってくるが、一考の余地があると考えている。

今回は11月上旬に開催予定。今年度は可能であれば年間4回ワーキングを開催したい。

第1回けんり・くらし部会（地域生活 Gr）（30.9.13）

1. 自己紹介

部会長と副部会長の選出

事務局より、部会長の案を出し、各委員の了解を得る。副部会長は未定。

新任委員3名。事務局担当、変更。

2. 前年度の振り返り

「知的障害者の高齢化への対応」については、引き続き、課題分析シートをもとに課題の詳細と背景、課題に対する取組の現状を確認しながら、解決策を協議していく。

「身体障害者の医療的ケア」については当事者や家族からの声は勿論のこと、訪問介護のみならず、訪問看護や通所施設等のサービス事業所の取り組みの現状や課題等も確認しながら、自立支援協議会としてどのような対応をしていくかを協議していく。

「精神障害者保健医療福祉連携推進会議」は、まずは精神障害当事者や家族が必要と思われる社会資源の情報をまとめたリーフレットづくりを進めていく。

また、第1回ワーキングで課題として出てきた緊急時の対応や支援者が抱え込んでしまう現状等についての解決策も協議していく。それぞれの持つ機能や役割の確認とつながり作りを行いながら、不足する機能や役割について、どのような社会資源が必要か、各委員の立場からどのような対応が可能かを協議していく。

3. 今年度の部会のテーマについて

地域生活をする上で困っていることについて

昨年度に出た課題について今年度も解決に向けて協議していくには限界もあるのではないかと、委員が変わったこともあり、新たに改めて委員の中から困っている、協議したいテーマを考えていければと思います。広い大きなテーマ「地域生活をする上で困っていることについて」にし今年度は協議していきたい。自立支援協議会の他の部会と連携を取りながら行っていきたい。実際に現在、地域生活している当事者、支援者（相談支援員）から困っていること等の話を聴き、多くの家族の方からの意見や支援者の意見、現状を踏まえながら様々な立場から今後どうしていけばよいか考え、議論していくのはどうか。情報共有していくことも課題解決に向けては重要。

（協議したい内容、意見）

○医療的ケアのできる放課後デイサービス、日中一時支援、生活介護の充実、親亡きあとの問題、サービス支給量のこと（人によって変わり、困っている人がいる）について協議したい。

○知的障害者、親の高齢化に向けて共生型のグループホームの勉強会をしている。高齢になった知的障害者の受け皿、学齢期を卒業後の受け皿を増やして欲しいと思う。

○精神障害者の地域移行、居場所づくり（夜、休日に参加できる場、医療体制の整っている場）

共生型のグループホーム（今ある施設を変えていくしかないのか）

○地域にある社会資源を活用し共生型を考えていったらどうか。地域医療にも高齢の方が多く障害の方は少ない。地域包括ケアシステムにも入っていないと思う。高齢も障害も必要になっていくこと、支援についてはあまり変わらないと思うため総合的に考えていくべき。地域包括と相談支援事業所と連携していったらいいと思う。

○当事者の話を聞くことは重要で議論も深められ考えていけるのではないかと。

○地域生活をする上で困っていることについてのテーマを分野別に分けて、当事者の話を聞いた方が良いのではないかと。

○昨年度の課題解決シート、当事者の声、抱えている事例から課題を出していき、優先順位をつけ、課題解決に向けて協議していくのはどうか。

○地域包括ケアシステムもあり、他職種の連携は重要。新たに困っていること、実際抱えている課題を協議していったらどうか。自立支援協議会内で他の部会もある中で協議内容についても整理してほしい。地域生活グループなので医療的ケア、障害・親の高齢化等地域生活で困っていることを話し合ったらどうか。3障害ある中でどのような協議をしていったらいいか。

○通院先の先生の高齢化も心配で病院の転院のタイミングが分からず困っている。薬が変わることも心配。

4. 年間スケジュールについて

11月、1月に知的障害者、身体障害者の2名ずつのヒアリングを行い、3月に今年度の振り返りを行うのはどうか。

○2ヶ月にわたりヒアリングを行うのはどうかと思う。11月に2名のヒアリングならいいと思う。

○今までの話合いの中でも課題は多数出てきている。

○会の代表として参加し、会の中で課題は出している。その中で再度、困っていることを聞くのはどうか。今ある課題をなぜ解決できないのかを協議していったらどうか。

積み上がってきた課題は何かをまず整理し、ここで議論できるもの、できないもので整理していく。まず地域生活グループで目指していくものは何かを考え、共通認識を持つ。

5. その他

共生型グループホームの実践

みんなねっと兵庫大会プログラム